

## TENA 歴13年、黒潮園が目指すのは？

社会福祉法人

**黒潮園** (和歌山県新宮市)

「特別養護老人ホーム 黒潮園」(入所100名・短期入所10名)

「地域密着型特別養護老人ホーム クレール高森」(入所29名・短期入所10名)



「特別養護老人ホーム 黒潮園」



「地域密着型特別養護老人ホーム クレール高森」

### 法人理念

温かい家庭的な雰囲気のもと、利用者様一人ひとりの尊厳の保持と、その個性や価値観を尊重し、それぞれのニーズと状況を十分に把握して、質の高い福祉サービスを提供するよう務める。

### モットー

- 一、「心と心の通い合い」を大切に・・・
- 一、「その人らしさ」に最大限の配慮を・・・

### 職員の志

私たちは社会福祉法人黒潮園の職員としての「志」を大切に、法人基本理念を実行いたします。

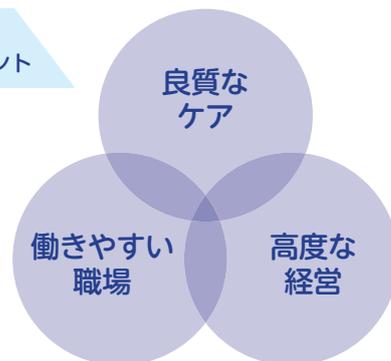
1. 私たちは介護現場に携わる専門職として、プロ意識をもって支援します。
2. 私たちは今までこの社会を支えてこられた利用者様の尊厳を大切にします。
3. 私たちは介護サービスの質の向上を図ります。
4. 私たちは明るく豊かな人間関係とチームワークを大切にします。

社会福祉法人黒潮園(和歌山県新宮市、岡司 理事長)は「特別養護老人ホーム黒潮園」(入所100名・短期入所10名)、「地域密着型特別養護老人ホーム クレール高森」(入所29名・短期入所10名)などを運営しています。同法人では、その人らしさに最大限に配慮した「質の高いサービスの提供」を理念に掲げ、ケア改革に取り組んでいます。そこでTENAの提案は「その人を大切に作るケア」というものでした。岡理事長は「排泄ケアを通じて理念の共有を訴求するおむつメーカーは他になく、私の目指す所とも近い考えであることから興味をもち、機能性の高いパッドとそのTENAの理念に共感し導入を決意。仮に高価であってもトータルでコストパフォーマンスが高いのかという視点も大切」と話します。

そうした施設の想いに寄り添い、良いモノの効果を最大限発揮できるように伴走支援をするのがTENAアドバイザーです。モノだけでなく、理念に共感できる仲間を増やす推進役で、施設内に排泄ケアについて検討する「コンチネンスサポートチーム(CST)」立ち上げおよび運営支援や、各種情報提供など縁の下力持ちとして活動しています。

現在、黒潮園では▽稼働率100%を達成▽介護人材不足が叫ばれる中でも有給休暇をとれる職場づくりを達成▽フルタイムパートを廃止し【全員正職員制度】実現▽夜間業務の多くを占めるおむつ交換の最適化による労務負担軽減など、働きやすい職場を創出している。またケア改革により経験に基づくケアから根拠に基づく専門性の高いケアへと進化したことで、ご利用者本位の個別ケアである“心のケア”を排泄以外のケアにまで波及。経営的にも安定させることに成功している。同法人での取組みを聞きました。

黒潮園の  
トータルマネジメント



# 岡理事長にお聞きした『黒潮園流・働き方改革』

## 根拠に基づく介護を目指すことは、介護職の地位向上を目指すこと



社会福祉法人黒潮園  
理事長・施設長 岡司氏

私は理学療法士で、前職は急性期病院に勤務していたこともあり、2008年に黒潮園の理事長・施設長に就任した時に「経験則を基本とした介護」に違和感を覚えたものです。当施設は46年の歴史がある社会福祉法人ですが、逆に言えば古い介護が根付いていたとも言えると思います。近年、介護保険制度において重視されている自立支援に資する科学的介護について、着任当初からその重要性を唱え、介護職の専門性の向上が喫緊の課題であると感じていました。

誰が言い出したのか「介護と看護の仲が悪い」とはよく言われることです。専門職とはアセスメントから始まり、根拠に基づき専門的にディスカッションしケアや治療などを実践するものです。しかし当初、介護職は医学的な知識に触れることが乏しく、排泄ケアにおいても根拠となる知識の不足から、看護職との連携やチームケアが不十分であったと考えています。

そうした中で、TENAアドバイザーが実際に排泄委員会に参加し共にカンファレンスを実施することは、専門性の向上と根拠に基づく排泄ケアを実現する第一歩となりました。現在、当施設では介護職を中心としたカンファレンスを週に1回実施し、多職種連携による自立支援介護を実践しています。

### ●TENAを活用した個別ケアへの転換

TENAを導入する前は、一律ケアにより夜間のオムツ交換を5回行っていました。勿論、濡れていない場合もあります。ご利用者への羞恥心への配慮の不足だけでなく夜勤帯の職員負担は非常に大きいものでした。

TENA導入後は、その方の尿量や排泄パターンに合ったアイテムを選んで適時に交換することで、夜間は1回程度に減少しました。交換回数を減らすと漏れが起こるのではと現場では懸念の声はありましたが、実際には漏れもなく皮膚の状態が良くなったのを目の当たりにし、やはり1枚単価は上がったとしても、良質なモノを選ばずして、良質なケアはできないと実感しました。一人ひとりのアセスメントに基づいて検討を重ねた結果、漏れたときも漏れないための工夫ではなく、「なぜ漏れたのか」「ご利用者はどんなお気持ちか」と変化していきました。

業務を滞りなく進めるといふ介護者視点の排泄ケアから、ご利用者視点の排泄ケアに変わったのは嬉しい変化でした。

### ●介護職から出た疑問

#### 「3日間、便が出ないと下剤を使うのはなぜ？」

以前は「3日間便通がなかったら下剤を使う」のがあたり前でした。しかし、若手の介護職員が「高齢者なら3日間便通がない事は普通にあるのではないのでしょうか。本当にその下剤は必要なのか疑問です。」と相談に来たことがありました。実際には下剤の連用による便汚染が多発し、衣類やシーツまで交換を要する事も多々あり、介護職にとって大きな負担となっていました。

そこで、私は「介護職も勉強をして、専門職として看護師と連携できることを目指しましょう。ご利用者のことを一番理解しているのは介護職の皆さんなのですから」と提案しました。ユニ・チャーム メンリックから提供してもらったブックレット「TENAワークショップ」を活用して、排便の仕組み、便秘のアセスメントや下剤について私が講師となり勉強会を開催しました。

現在では、できるだけ下剤を使わずに気持ち良く排便してもらうには？と看護師と介護職が連携し主体的に考え自立支援介護を実践しています。

### ●ご利用者の気持ちに寄り添えたときの「ありがとう」の重み

おなじ「ありがとう」でも、通常の移動介助時などのお世話に対する「ありがとう」と、トイレに行けるようになったとき、トイレ排泄に成功したときの「ありがとう」では、重みがまったく異なると教わりました。

私の介護職のキャリアは、以前の介護現場を含めると20年になります。その頃は「技術」としての介護でした。おむつ交換も「漏れないあて方」「素早いおむつ交換」の技術習得に努めていました。当時はまだご利用者の精神面や社会性、自立支援に注目したケアという、現在では重視する考え方がまだ薄かった頃でした。そういった時代に黒潮園に入職して、自分自身の目指していた介護に対する熱に合致すると感じました。介護の現実と想いの矛盾が溶解して、介護の奥の深さを追求する日々です。



介護主任  
宮上慶一氏

# ほかにも、こんな取組みや成果も

良質な  
ケア

## 摂食嚥下の専門性向上 約8割が普通食

介護職から「摂食・嚥下に配慮が必要なご利用者の食事介助が怖い」という相談を受けました。誤嚥させてしまうのではないかと怖くて、ベテラン介護士、看護師さんをお願いすることにしているそうです。専門的な知識や技術の不足が職員の心理的負担を生じさせていたのです。

そこで、以前の病院で同僚であった言語聴覚士の協力を仰ぎ、月2回施設に来てもらい、摂食嚥下に関する現場指導を10年間にわたって実施してもらいました。もしご利用者が誤嚥を起こし、入院となった場合にはベッド稼働率低下となることから、特養経営の観点からも摂食嚥下の食事介助技術・知識の向上は重要と言えます。

現在ペースト食は廃止され、嚥下に問題ある場合はゼリー食を提供。入居者の約8割が普通食となっています。また看取りケアにおいても最期まで口から食べて頂けるケアを、自信をもって提供できるようになりました。

働きやすい  
職場

## 同一労働同一賃金の職場・ 有給休暇が取れる職場づくり

介護人材不足の中で職員採用と離職防止のために、働きやすい職場づくりが求められていますが、私たちは同一労働同一賃金が重要と考え、2015年には全職種フルタイムパートの廃止(全員正職員制度)を導入しました。また、「有給休暇取得の義務化」を掲げ、2018年には有給休暇取得率80%、平均取得日数12.9日を達成しました。

介護人材不足の中で有給休暇がとれる職場を実現することはたやすいことではないですが、逆算して「何人増やして、何人でシフトを組めばよいか」を考えました。現在ではリフレッシュ休暇や、男性が育児休暇を取得できるなど、休みの取りやすい職場を実現しています。

職員シフトの最適化(必要人員を算出し、計画的に職員採用)

●「黒潮園」08年「2.4:1(常勤換算44.9人)

→22年「2.1:1(52.5人)」

●「クレール高森」08年「1.9:1(20.5人)

→22年「1.6:1(24人)」

(看護師は除く)

## 施設稼働率100%を達成

自立支援介護に取り組み、根拠に基づく排泄ケアや食事ケアなどケアの質を向上できたことで、体調を崩して入院するご利用者が激減しました。その成果は地域でも高い評判となり、入居申込やショートステイの依頼につながりました。

生活相談員も専門職として効率的なベッドコントロールに力を発揮し、急なショートステイ依頼にも積極的に対応。現在では施設稼働率100%を達成しています。



高度な  
経営

## 今後の展望:次世代にも魅力的な介護職へ



今後、産業全体で人材不足が見込まれる中、介護の専門性とその魅力を発信するとともに、次世代にも「介護の仕事は面白そう」と感じられる取り組みを提案し、新たな価値の創出を目指したい。

## TENAアドバイザーの想い

### 排泄ケアを入り口として、介護職をやりがいのある憧れの仕事に

TENAアドバイザー 増井 健吾



福祉を学び、施設で介護のアルバイトをしていた大学生の頃、世間では介護の仕事はキツイというイメージであると同時に、家族やご利用者からは心から感謝していただき、そのギャップに驚きを覚えました。“介護職をやりがいのある憧れの仕事にする”という思いを強くしました。その頃「介護について現場の若者と語る」というタウンミーティングで、当時自民党の谷垣禎一氏に思いをぶつけた時「介護福祉士は業務独占ではなく名称独占だから、その専門性を高めていくと良い」と回答いただき、介護職の専門性向上が重要だと考えました。

そうした思いを胸に介護施設に入職しましたが、理想と現実のギャップに苦しみ、8年後に介護現場を離れました。離れた今になって思うのは「自分の理想を押し付けるのではなく、なぜこれが大切だと考えるのか、経営者も上司も職員誰もが理解できる関わりが大切だ」ということです。

前職の反省も活かして、現在はTENAアドバイザーとして、担当するお客様の施設訪問の際には、動機づけとなるよう現場立ち会いを積極的に行っています。一緒にラウンドすると、CST会議では拾いきれないお声をとらえることができたり、ご利用者の変化を確認できるので、皆さんの頑張りをCST会議や経営層の方にお伝えしています。やりたい介護の実現に向けて伴走し、今後も活動します。

# 進化するTENAブランド

黒潮園様のように長くご愛用いただいている皆さまに愛されてきたTENAは、日本に上陸して30数年の月日が経過しました。その間にも機能改良を繰り返しデザインも刷新させ、近年ではスキンケアシリーズも揃えてますますラインナップを充実。長時間使用でも気にせずいられる吸収力、肌にあたる素材の滑らかさは、ますます進化しています。

10年前

5年前

現在



## 黒潮園様でもご活用いただいた「TENAワークショップ」

【コンチネンスケア with TENA】をチームで現場実践につなげていただくTENAワークショップシリーズ。排泄ケアの現場でよくある課題である排便、トイレ誘導、スキンケアの3つのテーマがあります。



- ① アセスメントから始める排便サポート
- ② 真の自立につながるトイレトレーニング
- ③ 排泄から考えるスキンケア

テーマごとに理念・基礎知識・チームでの実践ステップの3つの要素が1冊にコンパクトにまとめられています。毎月CST会議で少しずつ学ぶ、一人のご利用者を取り上げて取り組み開始するなど、進め方はさまざまです。TENAアドバイザーが目的に応じた進め方をご提案して伴走いたしますので、お気軽にお問合せください。

また、オンラインTENAアカデミーサイトでは、学習コンテンツを映像教材化したオンライン学習プログラムをご用意しています。映像教材のほかにも確認テストやお取組みでご活用いただく帳票類のダウンロードができます。

(オンライン学習プログラムご利用は、サイト会員限定)

### 映像教材受講・確認テスト・使用帳票ダウンロードができるオンライン学習プログラム

**排便のメカニズム**

消化・吸収に関係のある主な臓器

- 胃の容量は1200～1400mL
- 胃液は1日～1.5L分泌される
- 小腸は約6～7m、大腸は約1.6m
- 直腸は約20cm

アセスメントからはじめる  
排便サポート

**排便のメカニズム\_排便のプロセス**

腸管の中で消化液が混ざり、水分が吸収され、便が形成され、肛門から排出される。

真の自立につながる  
トイレトレーニング

**皮膚の構造**

表皮、真皮、皮下組織

角質層、棘細胞層、基底層

皮脂腺、汗腺

排泄から考える  
スキンケア

映像教材は、1テーマ  
約10分×3本で構成。  
スキマ時間でも学ぶ  
ことができます



### 黒潮園様のインタビューをショート動画でご紹介



## TENA 知っていただきたい2つのコト

<https://tena-academy.jp/news/4781.html>

